

# 経済の正常化と米金融政策

## ポイント① 米中の景気回復が続く

9月15、16日には米国と中国で8月分の鉱工業生産指数と小売売上高が発表されました。

中国の鉱工業生産は前年同月比+5.6%と7月の伸びを上回り、小売売上は同+0.5%と8か月振りのプラスとなりました。米国では鉱工業生産が前月比+0.4%、前年同月比-7.7%、小売売上がそれぞれ+0.6%、+2.6%となり、両方とも4か月連続で前月比増となりました。

米中とも経済の正常化に向かっていることが伺われます。ただ、米国の鉱工業生産、小売売上ともに伸び率は事前の市場予想や前月を下回っており、景気回復が一段と加速化しているほどではないようです。

## ポイント② 米金融政策は緩和維持の姿勢

9月15、16日には米国の金融政策決定の場であるFOMC（米連邦公開市場委員会）も開催されました。8月27日にFOMCは平均インフレ率目標を導入するとの声明を発表し、2%を超えるインフレ率を目指して金融緩和を継続する方針を示しました。今回のFOMCはそれを踏襲する形となりました。

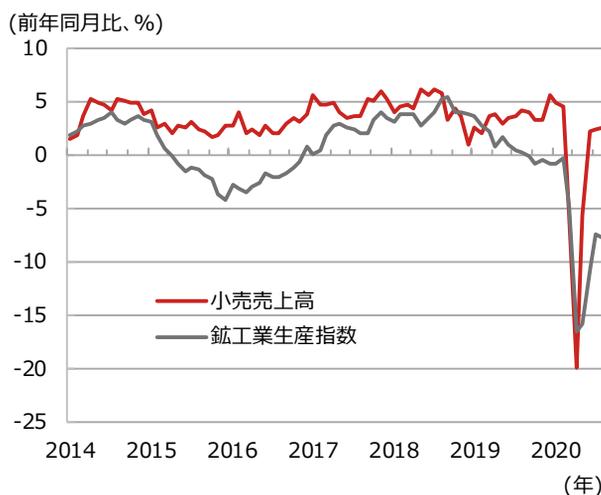
## ポイント③ 2023年までゼロ金利の見通し

FOMCでは参加者の新たな経済見通しも発表されました。6月の前回見通しと比較すると、足元の景気回復の兆候を反映して2020年の経済成長率見通しは上方修正されました。一方、個人消費支出デフレーターは、2023年によやく2%に達すると予想されており、事実上のゼロ金利政策が2023年末まで続けられるとの見通しとなっています。

為替市場では米金融緩和長期化の観測が強まったことなどから、円・米ドル為替レートは米ドル安が進み、一時1米ドル=104円台をつけました。

図1：米国の鉱工業生産指数と小売売上高

期間：2014年1月～2020年8月、月次



(出所) Bloombergデータを基に野村アセットマネジメント作成

図2：米FOMC参加者の経済見通し

(単位、%)

	予測時点	2020					中長期
		2020	2021	2022	2023	2020	
実質GDP <sup>1</sup>	20年9月	-3.7	4.0	3.0	2.5	1.9	
	20年6月	-6.5	5.0	3.5		1.8	
失業率 <sup>2</sup>	20年9月	7.6	5.5	4.6	4.0	4.1	
	20年6月	9.3	6.5	5.5		4.1	
個人消費支出 デフレーター(総合) <sup>1</sup>	20年9月	1.2	1.7	1.8	2.0	2.0	
	20年6月	0.8	1.6	1.7		2.0	
個人消費支出 デフレーター(コア) <sup>1,3</sup>	20年9月	1.5	1.7	1.8	2.0		
	20年6月	1.0	1.5	1.7			
FF金利 <sup>4</sup>	20年9月	0.1	0.1	0.1	0.1	2.5	
	20年6月	0.1	0.1	0.1		2.5	

(注) 1：第4四半期の前年同期比 2：第4四半期平均値  
3：エネルギー、食料品を除く 4：年末または中長期の目標レンジ中央値

(出所) FRB資料より野村アセットマネジメント作成

重要  
イベント

9月18日 米シガン大学消費者マインド指数(9月)  
9月21日 シカゴ連銀全米経済活動指数(8月)

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。